

Hardtech & Health

歴史と伝統の都市で、新しい答えを探し続けるチーム

なぜ、Plug and Play Japanなのか。

なぜ、Hardtech & Health Verticalなのか。

Haru もともと大阪大学で心不全の研究をしていました。その後新薬の開発を4年間くらいやっていたんですけど、日系・外資系両方の新薬の開発プロジェクトを受託していく中で、日系企業のプレゼンスの低さに課題を感じていたんです。

アメリカの企業のプレゼンスが大きく、そういったビジネスが生まれる土壌はどういったものなのか、実際にアメリカに行ってみようと思ってシアトルに約9ヶ月間留学しました。

またシアトルにはアマゾンやマイクロソフトのオフィスもあるのでそこでAI関係の話の聞いたり。アメリカの留学生は卒業後OPTといって最大1年間期間企業で働ける制度があるので、シアトルのマーケティングコンサルと、シリコンバレーのライフサイエンス・コンサルティングファームで働いていたんですが、シリコンバレーのオフィスがPlug and Play本社のすぐ近くで。自転車で10分くらいの所です。そこで「シリコンバレーIT業界日本人飲み会」みたいなのがあって、そのイベントに何回か参加していて、Plug and Playの事を知りました。

本社でも採用をしていたので応募してみたんですけど、「Health分野の立ち上げを日本で計画しているから、そちらの方がフィットするんじゃない?」と言われて、一時帰国したタイミングで面接を受け、入社に至りました。

Seiji 僕が入社したのは去年の3月です。もともとは製薬業界とか、病院のデジタルトランスフォーメーションとか、医療機関向けの窓口的な仕事をしていました。2018年にサンフランシスコのスタートアップで半年間インターンをしたのですが、そこも病院のセキュリティ関係のビジネスを展開していました。実はその時に住んでいたのがサニーバールだったんです。Haruくんと同じで、僕も徒歩10分くらいだったのと、知り合いが当時働いていたのでPlug and Playにはよく行っていました。

アメリカではなく日本で働きたいと帰国したのですが、次何しようかなと考えている時にPlug and Play Japanが東京にあるということを知って応募したのがきっかけです。

そこから、まずは内木さん(COO)と会って京都拠点立ち上げの話の聞きまし。僕は実家が関西なので関西にいたかったのと、ヘルスケアのテーマも自分が今までの業界だし、タイミング的にいいなと思ってジョインしました。

Will 反対に僕は Plug and Play とは何のつながりもなかったんです。同志社大学への交換留学の後は京都のホテルで働いていたんですが、辞めてアメリカに帰ったんです。仕事を探して、NBAのシャーロット・ホーネッツのメディアマネジャーを受けたりしていたんですが、その頃たまたまLinkedInで Plug and Play Japan がオススメされてきました。最初は内木さんに面接してもらったんですが、「京都いいですねー」みたいな雑談でしたね(笑)。

面接の間ずっと、もう一度京都に帰って来たいかどうか考えていました。でも京都でスタートアップエコシステムを作るという仕事はすごく面白そうと思ったんです。最初に留

学で来た時から京都のことはすごく好きだし、第二の故郷みたいな感じがしています。

Joji 大学を卒業して6年間、事業会社で海外営業・商品企画をやった後、2015年にニューヨークにあるコロンビア大学のビジネススクールに留学しました。コロンビアは東海岸のエスタブリッシュメントな感じで、卒業後は投資銀行やコンサルティングなどにいく人が多いイメージですけど、その頃からベンチャーキャピタルやスタートアップ関連の授業もすごく増えてきていて、実際に起業している先輩やクラスメートもいて、従来のキャリア観も変化しているのを感じていました。また、実際にVCで働いているベンチャーキャピタリストが教えている授業を受けて、すごく面白かったというの今に到るきっかけの一つだったりします。

Plug and Play Kyotoのいいところとは

Joji Plug and Playの良い点としては、仕組みとしての凄くユニークというか、今までなかったような新しい仕組みで、なおかつグローバルレベルでものすごく大きなプラットフォームになっているところだと思います。もちろん自分としてもがんばらなきゃいけないんですが、ある程度シリコンバレーで成功していて確立されたものがあるので、それを京都に持ってこれるというのが面白いですね。

京都って独特な文化というか、保守的だと思われがちなところがあると思うんです。でもそんなところにシリコンバレーという文化を持ってくるというのは、「全く違うもの」を持っていき新しいものを創っている感じが面白いですね。

文化的にも、すごく親和性がある側面と全然違う側面とが

帰国後は事業会社でスタートアップを含む投資を担当していました。実際にスタートアップと話をし、戦略的にフィットがあるのかどうかを判断したり、投資先のスタートアップへのサポートなどを担当していました。また新規事業部門と連携して自社の事業立ち上げにもかかわっていたので、社内の新規事業と社外のスタートアップを育てることの両方をやっていたんです。

両方とも難しいのですが、社内での新規事業に関してはいわゆるイノベーションのジレンマを目の当たりにして、外部スタートアップをより積極的に活用していった方が可能性があるのではないかと感じていました。そんな中、知人を通じてPlug and Playが京都拠点を作るという噂を聞きつけて、立ち上げメンバーとして立候補しました。

あると思っています。でも親和性が一部あるから入ってこれる部分はあると思います。新しいのが好きだし、新しいことにチャレンジしてみようとか、海外のものを取り入れてみようとか、そういうところが親和性がある面白いですね。

Haru 単純に、いろんな国のスタートアップと話できるのってなかなかできない経験だなと思っています。一週間のうちでも、国内だけでなく、中東とかヨーロッパとかアメリカとか、いろんなタイムゾーンの企業と話す機会をいただけていて。かつ、その国とか文化とか人によって課題意識が違っているから、「そういう事業をやっているんだ」「そういう解決方法で取り組んでいるんだ」という発見がすごく興味深いです。

イスラエルだったら、軍事技術に沿ってテクノロジーが発展しているので技術力が強かったりしますし、この前実施

高元 丈治 / Joji Takamoto
Director, Kyoto

早稲田大学卒業後、事業会社にて海外営業、新規事業開発、ベンチャー出資に携わる。Columbia Business SchoolにてMBA取得後 Plug and Play Kyoto に参画。登山と写真が趣味。家庭では睡眠不足と戦いつつ二児の父として奮闘中。



岩崎 誠司 / Seiji Iwasaki
Business Development, Kyoto

関西学院大学卒業後、外資系製薬会社にてMRを経験した後、シリコンバレーのスタートアップを経て、京都拠点立ち上げ前に Plug and Play Japan にジョイン。誰とでも友達になるのが特技。カラオケでは美声を披露してくれる。関西愛が強い。



大岩 晴矩 / Harunori Oiwa
Ventures Analyst, Kyoto

大阪大学大学院にてバイオの研究をしていた Plug and Play Kyoto 唯一の理系。医薬品開発、シリコンバレーのコンサルティング会社、バイオ系スタートアップを経て Plug and Play Kyoto に参画。クールな雰囲気に対して無類のサウナ好き。料理が趣味。

ウィル・ティアン / Will Tian
Program Manager, Kyoto

UNC Charlotte 卒業後、京都のホテルでのマネージャー職を経て Plug and Play Kyoto に参画。バスケットボール好きでアスレジャーファッションが基本。写真と動画制作が得意。大文字山に20分で登れる。アメリカ出身。





したイベント『新型コロナウイルスに立ち向かうテクノロジーとは』に登壇してもらったbinah.ai*1なんて、もう13社目くらいのシリアルアントレプレナーなんです。そういう方ともお話できるような機会が得られるっていうのはすごく良いですね。

Will 心の底からいうけど、Plug and Playに入って最高の経験はチームワーク。京都でみんなと働けていることが、この仕事で一番良かったことです。そして何もかもが新鮮。学ぶこと、理解することがすごくたくさんあるんです。プログラム全体の構成など、少しずつ理解してきてはいるけど、入社した時にはすでにBatch 1のコンテンツはもう既にある程度決まっていたので、入社してすぐは正直大変でした。

Batch 1を通して、みんながいろいろ教えてくれたと思います。様々なサポートやフィードバックをチームからもらえます。これからBatch 2が始まるけど、まだいろんなチャレンジがあるだろうなと思っています。タイムマネジメント、意思決定、プロセス管理、チームマネジメント、ロジスティクス、そして全部がオンラインになっていくのは、今だからそのチャレンジですね。

今季のプログラムマネージャーの仕事が思うようにできたら、これから先すごくいろんな可能性が広がると思います。

Haru あと、チームメイトで銭湯とサウナにいける(笑)。

Joji Willの言ったことに重ねると、チャレンジングというのはあるんだけど、「答えがまだ決まっていない世界」というのがすごく大きい。常にトライアル&エラーで、最適な答えを探して動き続けていると思います。ある程度「こっちの方がいいだろう」という方針や見立ては持ちますが、経験に頼るといよりは、改めて自分たちで答えを探していくみたいところ、そこがすごく面白いですね。

あと、Plug and Playって、業界のエキスパートだけが集まっているところではなくて、若いメンバーが多いんです。逆に業界の経験者を多く持つ人たちだけでPlug and Playを創ろうと思ったらできないんじゃないかな。新しい視点で、新しいことを試行錯誤しているのが、Plug and Playの一つの特徴でもあると思います。経験が少ないからこそその見方・やり方があるからできることも結構多くて、それも面白いです。

*1: Binah.ai ウェアラブル端末が無くても心拍数、心拍変動、精神的ストレス、酸素飽和度、呼吸数などを測定・モニタリングできるビデオ形式のアプリを展開

Seiji スタートアップも企業パートナーも両方関わっているので、個別に話す機会を持たせてもらったり、リアルな人間関係も生まれて、それはすごく嬉しいです。こういう仕事でないと、スタートアップ側も大企業側も両方関わる経験はあまりないと思います。

あと、Deal Flowやプログラムを通してパートナー企業からのニーズや協業実績を知れるので、深い知識やいろんなインサイトを学べることもこの仕事の醍醐味です。

今はまだハンズオンのスタートアップ支援としてできることには限界があるけど、今後経験を積んでメンターもできるようになったら、もっと新しい世界が開けてくるな、と個人的に思っています。

Plug and Play Kyoto で達成したいこと

Joji 京都の歴史にPlug and Playの名を残したいですね。

京都はベンチャーの都と言われながら、この数十年間新しい大企業が生まれていない状況です。70年代~80年代くらいに今にして売上数千億円規模の企業が生まれたのを最後に、次の世代を代表する企業が生まれていないのが課題だとみんなが思っているそうなんです。

そのあたりがPlug and Playに期待されている役割でもあるので、プログラムに入っているスタートアップももちろん、これから京都のエコシステムを活性化させていく起業家や生まれてくるスタートアップを支援して、次の京セラや島津製作所になるような企業を輩出できれば最高です。

「そのきっかけはPlug and Playでした」というくらいになると、最高のシナリオですね。

